

Case1：知的障害（食品製造加工業務で働く事例）

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター ぽこ・あ・ぽこ

1. 対象者の概要

自閉症の診断を受けている K さん。本人、母親、父親、祖母の4人家族で、本人のキーパーソンは母親です。養護学校在籍時、ぽこ・あ・ぽこの実習を経て、利用を開始しました。5日間の実習で、様々な部品組立作業や、清掃作業等を行ってもらう中でアセスメントをしました。作業上の課題として、作業そのものは行えるものの、全体的に指示理解に時間を要すこと、集中力が持続しないこと、部材の扱いが雑になること、指導を受けた際の対応（興奮する、身体を前後に揺らす等の行動が見られる）等で指摘を受けていました。また、全体的に幼く、自分のことを名前で呼ぶことや、唐突に自分の興味のある話題を一方向的に話し始めること、話を最後まで聞けないこと、スケジュールに沿って行動出来ないこと等の課題も見られていました。

Kさん	
性別	男性
年齢(就職当時)	21歳
障害等級	療育手帳B1(中度) 自閉症
支援経過	2009年3月 特別支援学校 卒業 2009年4月 ぽこ・あ・ぽこ就労移行支援事業 利用開始 2010年7月 ぽこ・あ・ぽこ生活訓練事業 事業移行 2011年10月 ぽこ・あ・ぽこ就労移行支援事業 事業移行 2011年11月 株式会社A トライアル雇用開始 2012年2月 同社 本採用 (2017年3月末時点で勤務5年4ヶ月)

2. 支援経過

課題だけを見ると、2年間という期間内での就労は難しいことが予想されました。しかし同時に、Kさんの特性とぽこ・あ・ぽこのこれまでの実績から、Kさんがぽこ・あ・ぽこの作業で活躍できること、また、適切な訓練環境を設定すればぽこ・あ・ぽこのプログラムに沿って就労準備訓練を行える見込みがあることも予想されました。そこで、2年の間に基本的労働習慣を身につけることを目標とし、2009年4月より就労移行支援事業での受け入れを開始しました。

【Kさんのアセスメント】			
	アセスメント	課題	支援
就労移行利用時 (1年3ヶ月)	<ul style="list-style-type: none"> 興味が定まらない 高度なコミュニケーションの取っ手が無い 挨拶、進捗、融通がせまくない 作業中に作業場所を離れしまったり、強硬な意見を出す 注意を受けられにくい 作業性は高いが、スピードや集中力にムラがある 作業手順の遵守が持続しない 	<ul style="list-style-type: none"> 興味の定まらない 基本的労働習慣の獲得 作業を単調に慣らす スピードの向上 集中力の持続 作業手順の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 興味が定まらない作業向けに、ゲームソフトでの訓練 コミュニケーションの取っ手 作業の単調化 現場での実践的指導 本人が興味を持てるような課題を設定 本人が興味を持てるような課題を設定 作業の単調化による集中力の向上 作業手順の徹底
生活訓練利用時 (1年3ヶ月)	<ul style="list-style-type: none"> 興味が定まらず、やるべきことがない 高度なコミュニケーションの取っ手が無い 挨拶、進捗、融通がせまくない 作業中に作業場所を離れしまったり、強硬な意見を出す 注意を受けられにくい 作業性は高いが、スピードや集中力にムラがある 作業手順の遵守が持続しない 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的労働習慣の獲得 作業の単調化 スピードの向上 集中力の持続 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームソフトでの訓練 コミュニケーションの取っ手 現場での実践的指導 本人が興味を持てるような課題を設定 本人が興味を持てるような課題を設定
就労移行利用時 (1ヶ月)	<ul style="list-style-type: none"> 適切な挨拶、進捗、融通が出来るようになってきている 作業性を求められる作業においては特化している 作業への積極性はあるが、雑い作業になると集中力が下がる 	<ul style="list-style-type: none"> どの作業でも集中して行う 	<ul style="list-style-type: none"> レビューでの振り返り 現場での実践的指導

ぽこ・あ・ぽこでは、作業室内・外での作業や外部実習を通して、就労準備訓練や利用者さんのアセスメントを行います。日々の訓練記録を元に、月に一度の利用者さんとの二者面談（レビュー）や、3ヶ月に一度の工賃査定（自立訓練と就労継続支援事業B型のみ、職員全員で一人一人を評価していく）、必要に応じてご家族や関係機関にも同席してもらいながら個別支援計画改定面談を行い、課題を明確化した支援を行っています。

アセスメント表で示しているように、Kさんは、就労移行支援事業利用時、事務補助作業での体験実習時それぞれで、勤怠の安定、集中力の持続、スピードの向上、指示通りの作業遂行などの課題がありましたが、訓練を通して徐々に改善が見られていきました。しかし、1年を経過した段階で、残りの期間内での就職は難しいと思われた為、利用開始1年3ヶ月後に生活訓練事業へ事業移行をしています。就労へ向けた訓練を引き続き行った結果、利用開始当初から見られていた課題が改善傾向にあった為、更に1年3ヶ月後に再度、就労移行支援事業へ事業移行し、就労に向けた訓練や実習を本格的にスタートしました。

3. 企業の概要

A社は、大手飲食チェーン店を運営している株式会社の特例子会社です。神奈川県内に2ヶ所の事業所があり、ぼこあ・ぼこからは述べ15名（2017年2月末時点）の利用者が就労をしています。

A社は様々な定着支援の工夫を行っている会社です。例えば、就労者の状況に応じて、事業所間での異動や、作業ラインの配置替え等、柔軟な対応をしています。また、月に1度、社長と就労者による面談の機会を設けており、社長をはじめ指導員とも距離が近く、困ったことがあった時に相談しやすい体制が整っています。

会社名	株式会社A(特例子会社)
規模	従業員数:約60名 資本金:1000万円
事業内容	食品製造加工業務 グループ会社の事務補助
雇用形態	パート労働者
労働条件	就業時間:9時~16時 休日:シフト制、週休4日 加入保険等:雇用保険、労災保険

4. マッチング

ぼこあ・ぼこでは、就労後の定着を見据え、職員間で意見交換をしながらジョブマッチングを行います。日々のアセスメントを元に、職場の条件や環境、将来的な変化までイメージしながら、慎重に検討します。

Kさんは約2年半の訓練で基本的な生活習慣・労働習慣を身に付け、施設内では落ち着いて作業ができるようになっていました。A社が新たに展開する障害者雇用の業種で本人の強みが活かせるだろうと思われたこと、自宅からの通勤距離も本人にとってはベストであることから企業内実習に挑戦しました。挨拶、報連相をしっかりと行い、真面目に仕事を行うことができたこと、今後スピード向上の見込みがあることを評価され、

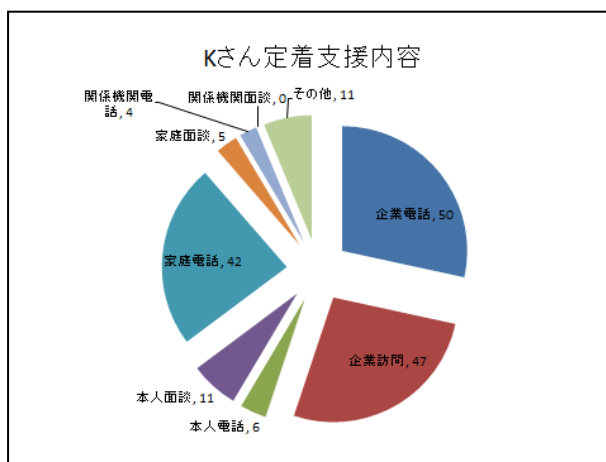
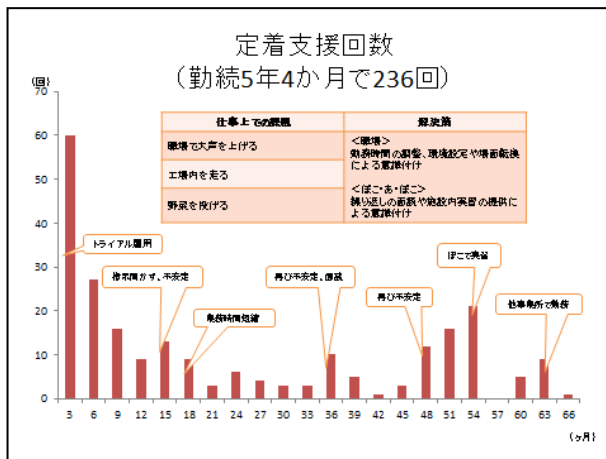
株式会社Aの条件	本人の状況
<p><業種> 食品加工工場内での野菜カット</p> <p><勤務地> 横須賀市内</p> <p><勤務時間> 8:00~15:00 週5日・シフト制</p> <p><現場の体制> 現場担当管理スタッフ(男性1名) パートさん(複数名)</p> <p><求める人物像> ・工場内での障害者雇用が初めての為、素直で安定感のある人</p>	<p><強み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練を通して、基本的な生活習慣・作業生活習慣を身に付けている ・巧緻性を求められる仕事を得意としており、指示通り行える ・勤怠が安定しており、急な体調不良等もない <p><弱み></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に幼さが残る ・注意に対する耐性が低い

3ヶ月間のトライアル雇用へと進みました。

5. 定着支援

ぽこ・あ・ぽこでは、就労者に対して期限を設けず定着支援を行っています。定期的な企業巡回をメインとし、2ヶ月に1回の居場所提供や年に1回の同窓会やみかん狩り等の余暇活動も設け、ケースに応じて就労者本人やご家族と面談を行っています。

Kさんに対しては、勤続5年4ヶ月で236回（2017年3月末までの集計）の定着支援を行いました。トライアル雇用期間を除いた支援内容では、企業とのやり取りが50%以上を占めています。Kさんは定期的に職場で不安定になることがある為、企業担当者と密な情報交換を行い、状況に応じてご本人との面談を繰り返し、社会人としてのマナーに対する意識付けをしてきました。面談を行うことで落ち着きを取り戻していましたが、勤続4年を過ぎる頃に、大きく不安定になり、職場での指示や注意に



対応できなくなっていました。原因が究明できず、社長や担当者と相談し、1週間、ぽこ・あ・ぽこの作業室内で実習を行い、クールダウンと共に改めて指示に従うことの大切さを指導した結果、落ち着きを取り戻す事ができました。その後も不安定になることはありつつも、企業側の臨機応変な対応により、現在も就労を継続することができています。

6. まとめ

ぽこ・あ・ぽこが就労支援を行う上で大切にしていることは、①利用者の過去・現在の状態をしっかりと把握し、②事実に基づき根拠を持って支援をする、③将来的なイメージを持ちプロセスを大切に支援する事です。障害を持つ人が一人でも多く社会の中で活躍できるよう、職員全員で精進していきたいと思ひます。